

高岡市総合計画 第4次基本計画

総論

- 第1章 基本計画の策定 …… P.8
- 第2章 人口の見通し …… P.13
- 第3章 土地利用方針 …… P.18
- 第4章 財政の見通し …… P.26
- 第5章 リーディングプロジェクト …… P.27



基本計画の策定

1 策定の趣旨

総合計画基本構想は、平成29年度から令和8年度までの10カ年の市政運営の基本方針を示すもので、まちの将来像として「豊かな自然と歴史・文化につつまれ 人と人がつながる 市民創造都市 高岡」を掲げています。

「市民創造都市」とは、先人の進取の気概を受け継ぎながら、市民一人ひとりが日々の活動の中で新たな価値を創り出し、その営みの中で、次の世代を担う市民が育まれ、新たなまちを創っていくという好循環にある都市をイメージしています。

人口減少・少子高齢化が進行する中で、まちの将来像を実現するためには、長期的（20～30年後）な視点に立って、「次の世代」からも共感を得ることができるまちづくりを進めていく必要があります。

第4次基本計画では、基本構想期間の後半を担う計画として具体的な施策を示し、これまでの成果を最大限に活用するとともに、新たな時代の潮流を積極的に取り入れ、「変革」に挑戦していきます。

2 計画期間

第4次基本計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

3 計画推進の考え方

基本構想では、まちの将来像を具現化するため、5つの分野で17のめざすまちの姿を設定し、『共創』『再発見』『発信』の3つをキーワードとして総合的・横断的に施策を展開しています。

施策の推進にあたっては、市民や企業、行政など、様々な主体が連携し新たな価値を創り出す『共創』の視点のもと、飛越能エリアの玄関口として進めてきた「都市基盤」の整備、「万葉」、「加賀前田家」や「ものづくり」など、本市の地理的条件の優位性や歴史・文化の『再発見』、『発信』への取り組みを進めています。

この基本構想の3つのキーワードのもと、第4次基本計画においては、人口減少・少子高齢化の中で次の世代から共感を得るまちづくりを進めるため、新たな時代の潮流を取り入れ「まち・ひと・しごと」の創生を進める第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」※1をリーディングプロジェクトに位置付けて計画を推進していきます。

.....
※1
人口減少と地域経済縮小の克服に向けたまち・ひと・しごとの創生と好循環の確立のため令和2年2月に策定した第2期の地方版総合戦略。

(1) リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクトとは、基本構想に掲げるまちの将来像や 17 のめざすまちの姿の実現に向けて、計画全体をけん引・先導する取り組みを指します。

高岡市総合戦略は、将来にわたって人口減少を克服し地域経済の活性化や地域社会の維持を図ることを目的としており、第3次基本計画においてリーディングプロジェクトに位置付けられています。また第2期総合戦略「みらい・たかおか」では、「しごと」、「まち」の創生が概ね順調に進捗しているという第1期の評価を踏まえたうえで、高岡の強み（歴史・文化、ものづくり）を活かしながら、将来を切り拓いていく「ひと」の創生を起点とした高岡市ならではのまち・ひと・しごとの創生に取り組み、「市民創造都市 高岡」の実現を目指すこととしています。

加えて、Society5.0※2の実現に向けた次世代技術の積極的な活用や、SDGs※3の理念に沿った地方創生の充実・深化といった新たな時代の潮流を取り入れています。

「みらい・たかおか」は総合計画のまち・ひと・しごと創生に関する政策、施策を盛り込んだものであり、第4次基本計画においても、第3次基本計画と同様にリーディングプロジェクトとして位置付けます。

※2

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のこと。

※3

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の略。「誰一人取り残さない」をテーマに、経済・社会・環境の調和をとりながら持続可能な世界を実現するために2015年の国連サミットで採択された2030年までの国際目標。17の目標と169のターゲットで構成される。

※4

本市で生活を営む地域住民をはじめ、本市に関わり、各種の活動に取り組むすべての個人や団体。

(2) 「都市の強み」、「まちの魅力」を活かす「ひとの力」

本市は、首都圏から関西圏へと続く交通の東西軸と、中京圏から飛騨を経て能登へとつながる南北軸が交差する交通の要衝にあり、3大都市圏からほぼ等距離に位置しています。また、人や様々な物資が出入りする環日本海の玄関口として、「総合的拠点港」である伏木富山港を擁しており、富山空港からも至近の距離にあります。

こうした地の利や、北陸新幹線の開業という時機をとらえ、駅周辺の区画整理、スマートインターチェンジやアクセス道路といった交通基盤の整備を進め、「都市の強み」を構築してきました。

また、ものづくりのまちに受け継がれる伝統技術の保存・継承に取り組むとともに、本市に息づく歴史・文化資産の保存・活用を図ることで、「まちの魅力」を磨きあげてきました。

一方、人口減少・少子高齢化の進行により地域経済の活力が低下することが懸念されており、今後は、今ある行政サービスや公共施設機能、インフラ等の合理的かつ効率的な維持・活用に軸足を置き、これまでに築いてきた「都市の強み」、磨いてきた「まちの魅力」を最大限に活用していくことが重要なポイントとなります。

「都市の強み」と「まちの魅力」を活用し、新たな価値を創り出すのは「ひと※4」であり、リーディングプロジェクトである「みらい・たかおか」においても「ひと」の創生を起点としており、まさに「ひと」こそがこれからのまちづくりの主役です。

「ひと」が、本市に愛着と誇りを持ち、それぞれの持つ個性や能力に応じて、地域社会の中で創造的な力をいかんなく発揮し、相互に刺激しあうことで、新たな価値を生み出し、地域の経済やコミュニティをきらめかせる大きなエネルギーとなります。第4次基本計画では、そのような「ひとの力」に着目することとします。

現在、伝統工芸や歴史的な町並みを活かした官民連携による取り組みや芸術文化活動が展開され、またそれぞれの地域において、地域住民の方々を中心に防災、福祉などの分野でお互いが役割を見出して活動が行われるなど、「市民創造都市 高岡」の胎動が見られます。

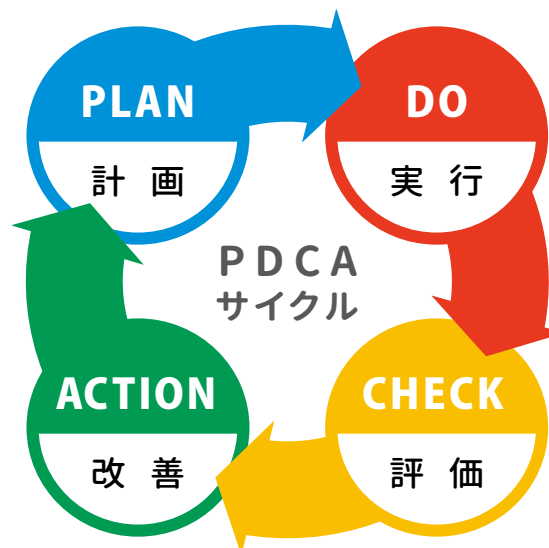
高岡ならではのこうした動きを、「ひとの力」で一段と高いステージに引き上げ、時代に応じた「変革」にも取り組むことで、将来にわたって持続可能で進化し続けられるまち「市民創造都市 高岡」の実現を目指していきます。

4 計画の進行管理

計画を進めるにあたっては、目まぐるしく変化する経済社会情勢に的確に対応するため、統計データ等の客観的な指標も活用しながら、既成概念にとらわれず、時機を逸することのない柔軟な進行管理を行います。

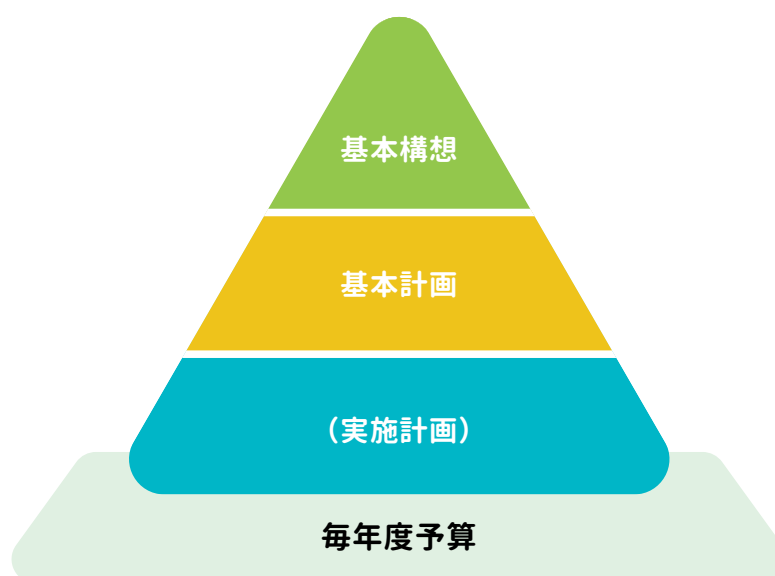
本計画における施策は、実施計画にあたる各分野の個別計画の実施により推進していきます。

各計画の事業については、PDCAサイクル〈政策協議・予算編成〉〈事業実施〉〈事業の評価〉〈事業の見直し〉により進行管理していきます。





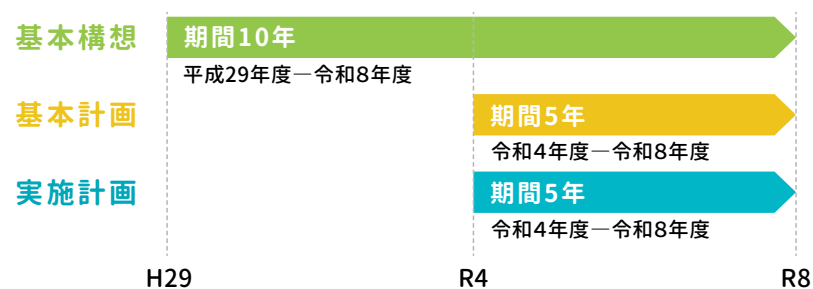
総合計画のイメージ



基本構想 まちの将来像やめざすまちの姿、それらを実現するための施策の大綱を表し、長期的な市政運営の基本方針を示します。

基本計画 基本構想の施策の大綱に基づく施策ごとの現状と課題やその展開を示した中期的な計画です。

(実施計画) 基本計画に基づく施策の具体的な取り組みを表す中期的な計画で、毎年度における予算編成と事業実施の指針となります。



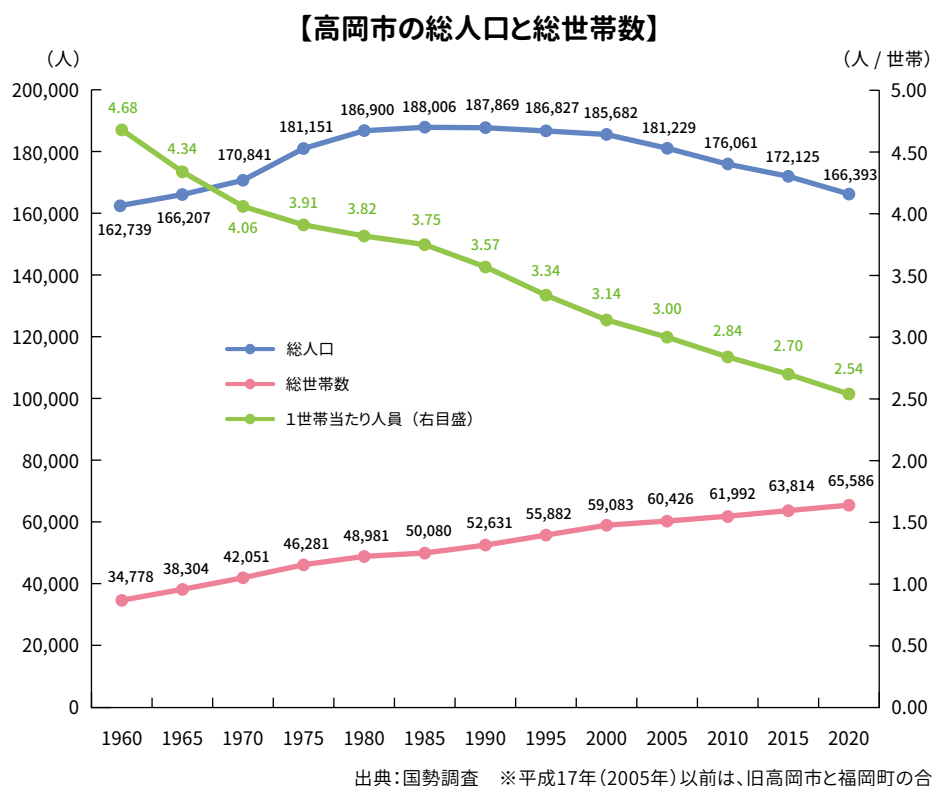
人口の見通し

1 人口の現状

(1) 総人口と世帯数の推移

高岡市の総人口は、昭和60年(1985年)の188,006人をピークに減少傾向にあり、令和2年(2020年)の総人口は、166,393人となっています。

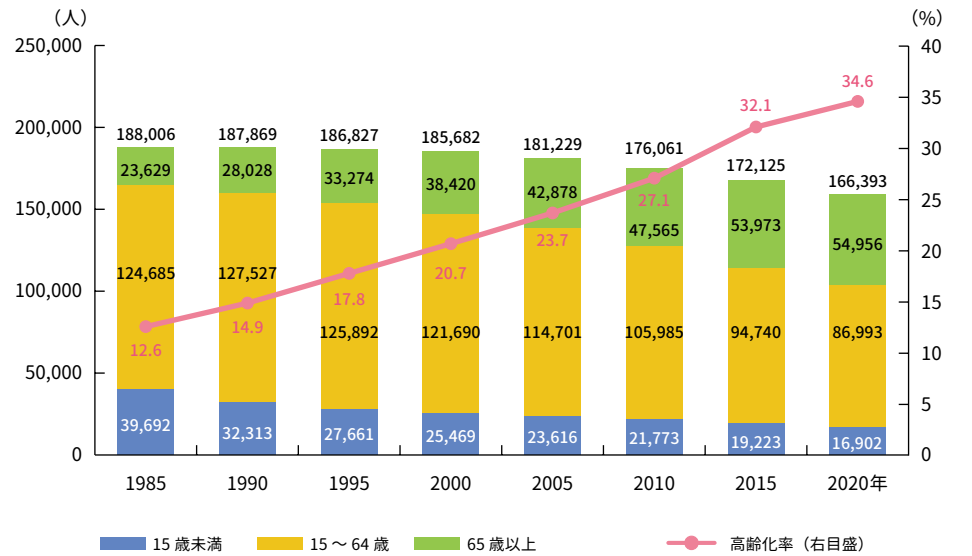
一方、世帯数は増加が続いており、令和2年(2020年)の世帯数は65,586世帯、1世帯当たりの人員は2.54人となっています。



(2) 人口構造の変化

年齢3区分別人口の推移では、昭和60年(1985年)に対し令和2年(2020年)は、15歳未満の年少人口が57.4%の減少、65歳以上の老年人口は2.3倍に増加、高齢化率は12.6%から34.6%(全国28.6%、富山県32.6%)に上昇しており、少子高齢化が進んでいます。

【年齢3区分別人口と高齢化率の推移】

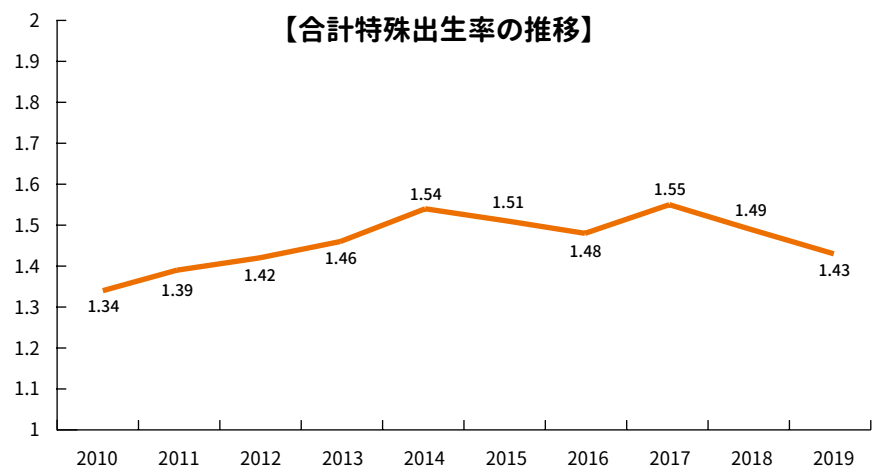
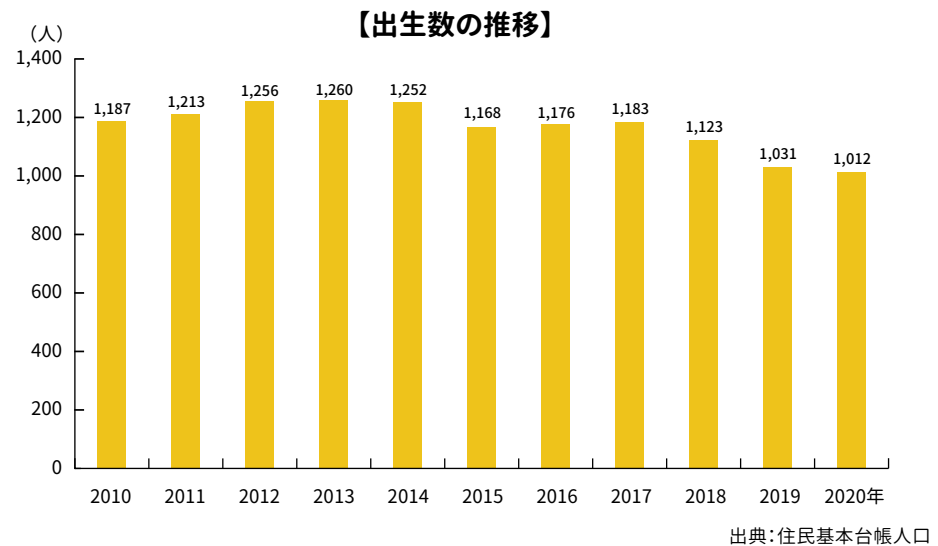
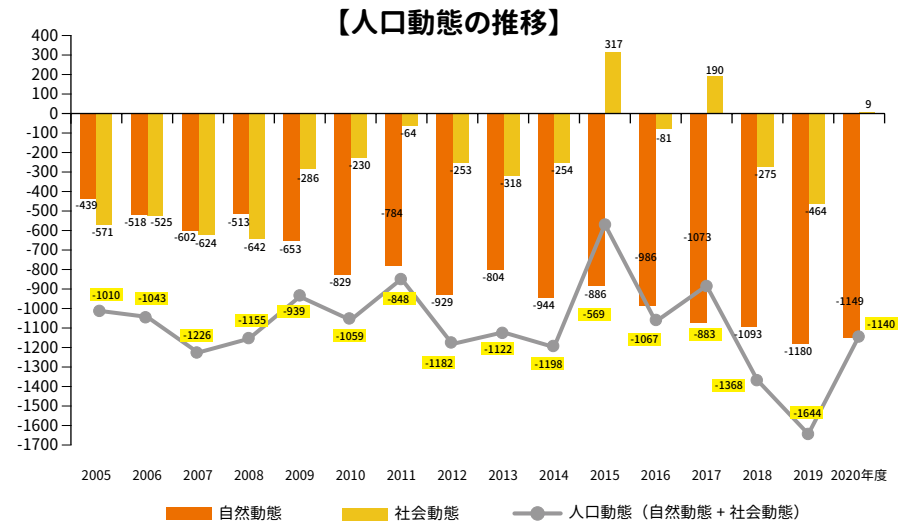


(3) 人口動態

人口動態については、自然動態は減少が続いていますが、社会動態は近年増加に転じた年もあります。

自然動態は、平成14年(2002)に死亡数が出生数を上回って以降、減少傾向が続いており、出生率の低下や女性人口そのものの減少により出生数は横ばいから減少、高齢者人口の増加に伴って死亡数は微増となっており、減少幅が拡大しています。

社会動態は、若者の大学進学や就職を契機とする県外への転出、20代後半の女性の就職などを理由に、これまで転出が転入を上回る状況となっていました。近年は社会動態が改善する兆候がみられ、2020年度はコロナ禍で転入・転出の動きがそれぞれ減少した中ではありますが、3年ぶりに社会増となりました。本市の定住人口の増加に向けた「働く場」「子育て」「住まい」を柱とする体系的な取り組み、交流の拡大を定住に結びつける取り組み等を進めてきたことが、都市の総合力として評価されたものと考えられます。



2 人口の将来展望

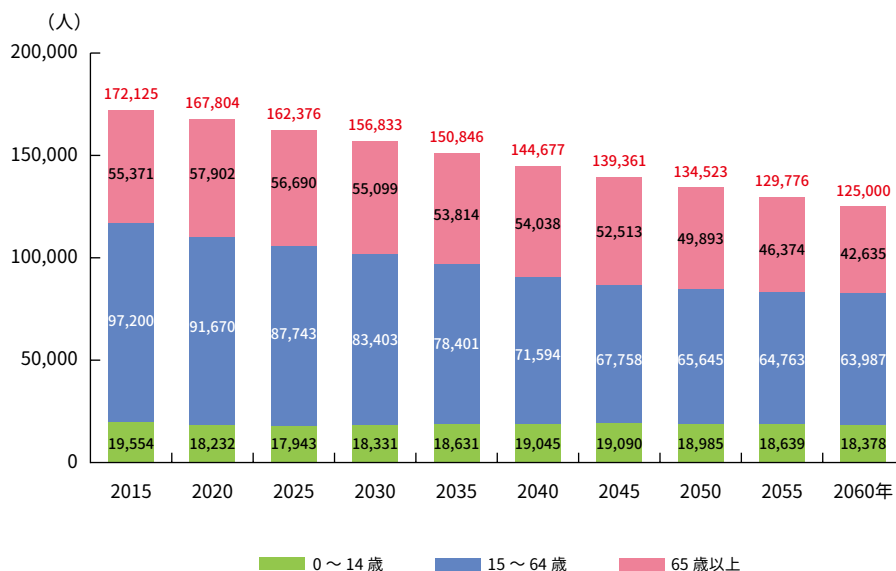
国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づき算出すると、市の総人口は2060年に108,205人まで減少することとなります。現状のまま、少子高齢化による急激な人口減少が続くと、生産年齢人口の減少に伴い労働力人口の減少が予測されることから、経済・産業活動の中心となる担い手不足による経済活力の低下が懸念されます。また、一般的に小売業の販売額は、都市の人口規模に比例しており、人口減少により地域の商業機能も縮小します。さらには、医療や生活関連のサービス機能の集積も縮小し、地域の活力だけでなく暮らしやすさまでも低下する恐れがあります。

この急激な人口減少に対応するため、短・中期的な視野のもと社会動態の面から対策を強化し、人口減少の抑制を図るとともに、人口減少に対応した地域づくりを進めます。同時に、人口減少問題の根本的な解決には、出生率の向上が不可欠となるため、女性人口そのものの確保に努めながら、長期的な視野で若者の結婚・出産・子育ての希望の実現を図ります。

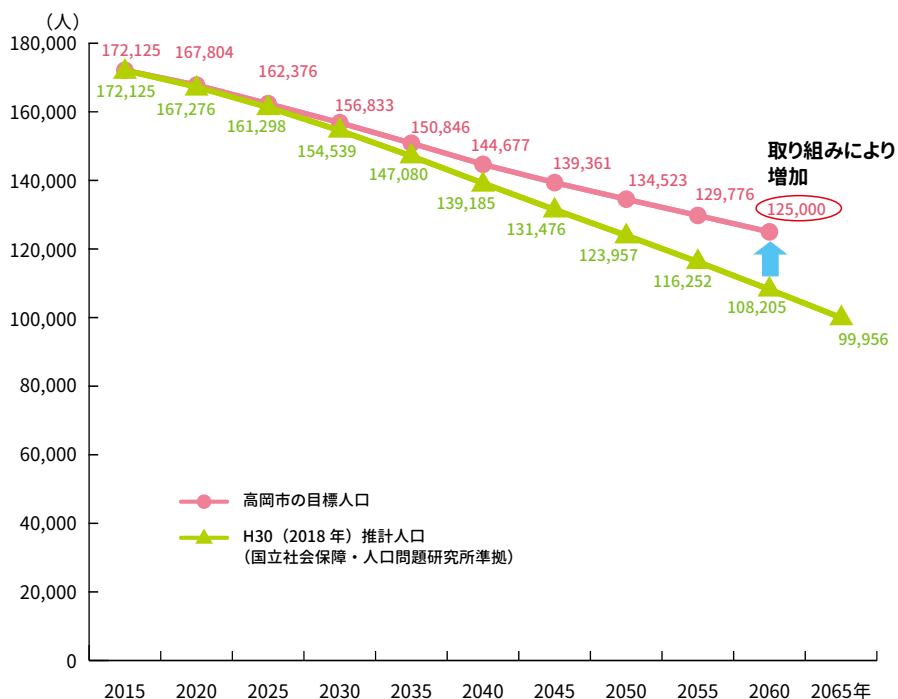
具体的には、若者の流出が進んでいる市の人口の現状を踏まえ、魅力的な仕事づくりや住みやすい環境の整備による若者の定住の促進、子育てしやすい環境づくり、仕事と子育てを両立しやすい環境の整備による安心して子どもを生み育てられる地域社会の実現など、これまでの「働く場」「子育て」「住まい」を柱とする定住人口増加の取り組みを一層強化しながら、地域コミュニティの維持・強化やコンパクト・アンド・ネットワークの推進などによる人口減少に対応した地域づくりなどの取り組みを進めます。

これらにより、現状1.5程度の合計特殊出生率を2030年までに県民の希望出生率である1.9に、2040年までに人口置換水準の2.07に引き上げ、社会動態は均衡を保ちつつ、政策努力により若い世代の社会動態の増加を目指すことで、2060年に125,000人の人口を維持することとします。

【年齢3区分別の将来人口の推計】



【将来人口の推計】



土地利用方針

1 土地利用方針

(1) 都市的土地利用

市街地は、新幹線、高速道路、港の都市基盤を活かし、地域の特性に応じた農業生産環境、自然環境との調和を図り、災害リスクを考慮し、安全で快適な市民生活や効率的な社会経済活動の場の確保を図ります。

このため、歴史的な町並みや歴史的建造物の周辺では、歴史的風致の維持向上に配慮した土地利用の誘導を図ります。また、中心市街地では、土地取引の円滑化と土地の有効活用を促進するほか、災害復旧の迅速化に備え、土地の境界の明確化に取り組みます。さらに、市街地に混在する農地は、災害を想定した安全・安心な市街地形成や、良好な都市環境の確保の観点から、市民の関心や理解の醸成を図りつつ保全に努めます。

一方、都市機能や居住を市街地に誘導し、一定の人口密度を維持するとともに、鉄軌道や道路によってネットワーク化し、地域公共交通の活用などを通じて、持続可能な都市の実現を図ります。

特に、県西部地域の中核都市にふさわしい、賑わいと魅力ある空間を創出するため、新高岡駅から高岡駅を経て、中心市街地を結ぶ軸線上を中心に、民間事業者のノウハウを活用し、多様な都市機能の集積を進めます。

〈住宅地〉

- ・住宅地は、中心市街地や周辺市街地の鉄軌道駅周辺を中心に、災害リスクを考慮して配置します。
- ・中心市街地では、様々な都市機能の維持・誘導を図るとともに、土地や住宅の取得支援により、まちなか居住を推進します。
- ・中心市街地の一部に見られる密集市街地での居住環境の向上と安全性の確保に向けた取り組みを進めます。
- ・伏木、戸出、中田、牧野、福岡地区などの周辺市街地では、住民が快適な生活を送ることができるよう、良好な居住環境の形成を図ります。

〈商業地〉

- ・商業地は、郊外部での無秩序な開発を抑制しながら、地域の拠点性や利便性を考慮して配置します。
- ・新高岡駅周辺から高岡駅を結ぶ軸線上を中心に、商業・業務、交流などの都市機能の維持・誘導を図ります。
- ・高岡駅から中心市街地を結ぶ軸線上を中心に、既存商業集積地の維持と再生を図りながら、商業・業務、教育・文化などの都市機能の集積を進めます。
- ・伏木、戸出、中田、牧野、福岡地区などの地域の生活拠点では、住民の日常生活を支えるサービス機能の集積を進めます。

〈工業地〉

- ・ 工業地は、三大都市圏とほぼ等距離に位置し、東西・南北の高速道路網と環日本海に拓けた総合的拠点港を有する本市の地理的優位性から、北陸自動車道スマートインターチェンジ周辺や能越自動車道インターチェンジ周辺、伏木港の背後地などに配置します。
- ・ 既存産業団地の隣接拡張に加えて、交通条件の優位性を活かし、周辺環境に配慮しつつインターチェンジ周辺において、新たな企業立地の需要に対応した計画的な土地利用を進めます。
- ・ 流通業務地は、北陸自動車道や能越自動車道の有効活用と新たな幹線道路網などを考慮して誘導を図ります。
- ・ 伏木外港周辺では、国際交流や物流拠点としての機能の誘導を図ります。

(2) 農業的土地利用

農地は、農業生産基盤としての役割に加えて、国土の保全機能や水源のかん養機能^{※1}などの多面的機能を有する観点から、無秩序な農地転用の抑制などにより、今後も優良な農地の確保と有効活用を図ります。

このため、大圃場化や新たな担い手^{※2}への農地の集積・集約化を進めながら、農地の荒廃防止を図り、国土の保全を進めます。また、農地や農業用水の保全を図るため、地域ぐるみの活動を促進し、良好な農村景観や農村環境の保全、生活環境の向上に取り組みます。

(3) 自然的土地利用

森林は、木材生産のみならず、地球温暖化の防止や土砂災害の防止、水源のかん養機能などを有する貴重な資源であるため、林業の経営を集積・集約化し、荒廃防止に努めます。

また、雨晴海岸をはじめ、ふくおか西山森林県定公園などの優れた自然景観を有する区域や、二上山、西山丘陵地などの都市の自然美を有する地域の保全と活用に取り組みます。

.....

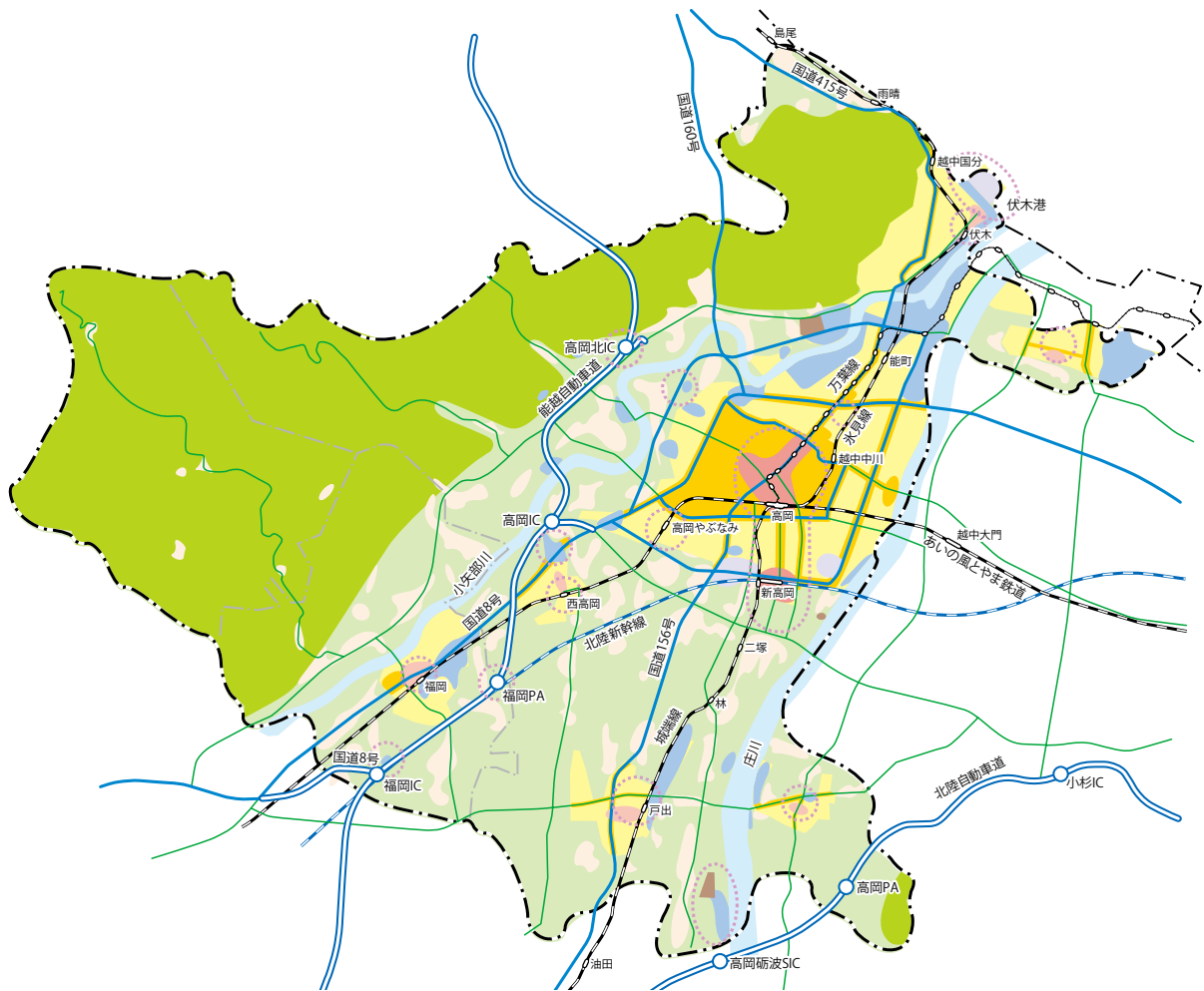
※1

農地や森林の土壌が降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能に加え、雨水が水田や森林の土壌を通過することにより、水質が浄化される機能。

※2

効率的かつ安定的な農業経営とそれを目指して経営改善に取り組む農業経営者。

【土地利用概念図】



凡 例

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 一般住宅地区 | ゆとりある低層住宅を中心とする地区 |
| 複合住宅地区 | 住宅を中心に商業・業務の立地も許容する地区 |
| 広域商業地区 | 市の中心的な商業地と高次都市機能が集積する地区 |
| 生活商業地区 | 商業施設と身近な生活サービス施設が集積する地区 |
| 工業地区 | 企業団地をはじめ工場等生産施設が集積する地区 |
| 流通業務地区 | 流通業務関連施設が集積する地区 |

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| 産業支援地区 | 産業支援施設や研究開発施設が集積する地区 |
| 農業振興地区 | 優良農地を保全し農業の振興を図る地区 |
| 田園集落地区 | 市街化を抑制しながら良好な集落環境を保全する地区 |
| 自然環境保全地区 | 良好な自然環境の保全を図る地区 |
| 河川 | |

計画・開発促進地区

道路区分

- | | |
|--|----------------|
| | 高規格幹線道路 |
| | 主要幹線道路（環状放射道路） |
| | その他主な幹線道路 |
| | 行政区域 |
| | 都市計画区域 |

2 都市構造

本市では、コンパクト・アンド・ネットワークの都市構造により、持続可能な都市の実現を図るため、都市機能などの集約を目指す「拠点」と、都市や拠点間を結ぶ「連携軸」を設定します。

(1) 拠点の設定

- ・ **広域都市拠点**

都心エリア（新高岡駅～高岡駅～中心市街地）において、県西部地域の中核都市にふさわしい高次都市機能の集積を図る拠点

- ・ **地域生活拠点**

周辺市街地エリア内の中心となる駅などの周辺において、身近な生活サービス機能の集積を図る拠点

- ・ **産業拠点**

今後積極的に産業の集積を図る拠点

- ・ **広域交通結節点**

高速道路のインターチェンジや新高岡駅など、本市と大都市圏などとの連携を図るための高速交通網の結節点

(2) 連携軸の設定

- ・ **広域交流軸**

本市と大都市圏などを結ぶ高速交通網（北陸新幹線と高速道路）

- ・ **都市間連携軸**

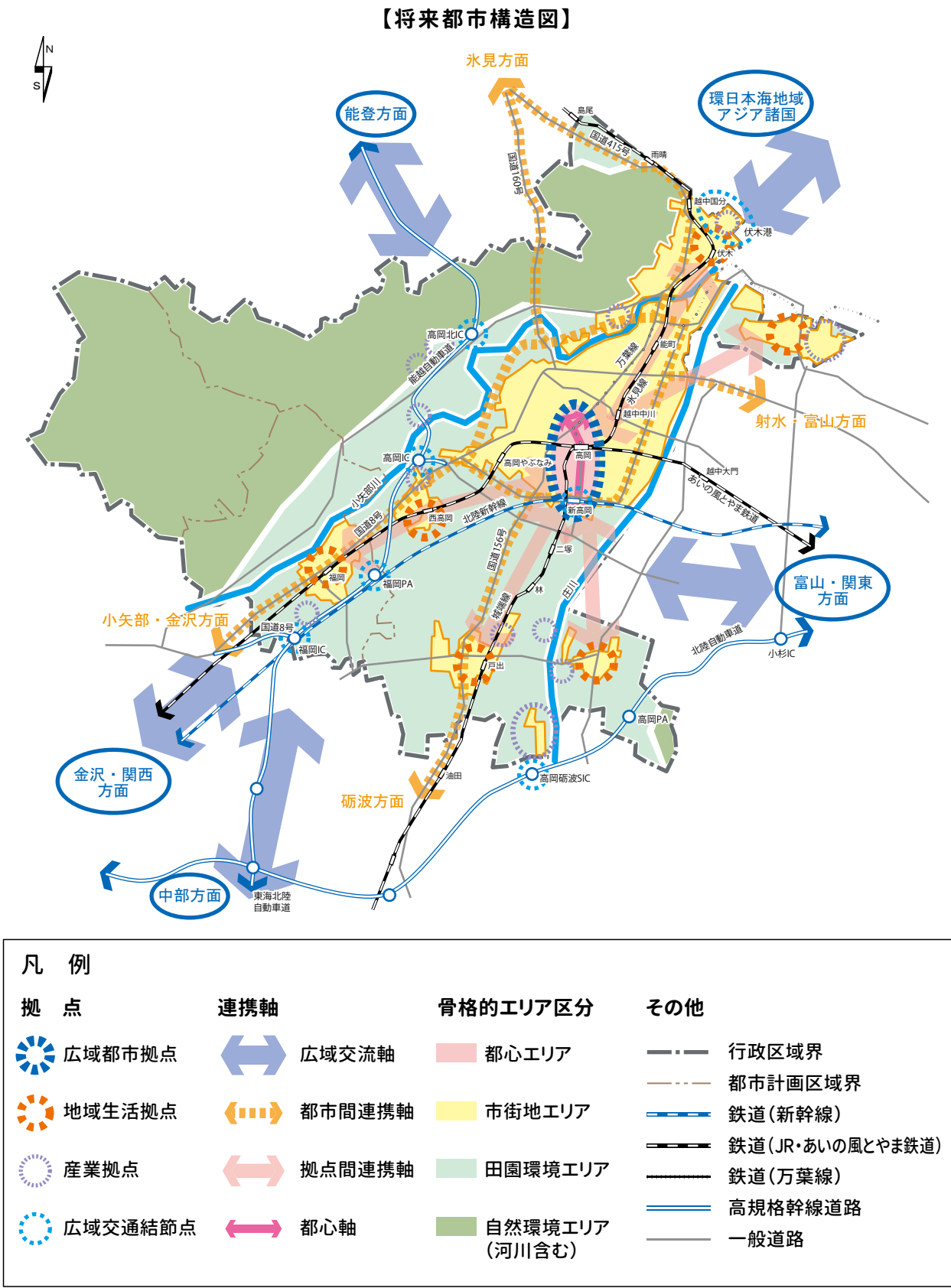
本市と近隣都市を結ぶ鉄軌道や道路

- ・ **拠点間連携軸**

広域都市拠点（都心エリア）と地域生活拠点（周辺市街地エリア）を結ぶ鉄軌道・路線バスや道路

- ・ **都心軸**

中心市街地と高岡駅や新高岡駅を結ぶ鉄軌道・路線バスや道路



3 都心エリア

都心エリアでは、歴史的な経緯や都市機能集積などの特性に応じて、次のように5つのゾーンを設定します。

(1) 古城公園ゾーン

既存の文化、交流や商業・業務機能を中心とした高次都市機能を集約するゾーン

(2) 歴史の町並みゾーン

重要伝統的建造物群保存地区である山町筋や金屋町を中心に、歴史・文化を活かした交流・観光の拠点となるゾーン

(3) 高岡駅周辺ゾーン

県西部地域の交通結節点として、商業・業務や交流機能を中心とした多様な高次都市機能と都市型住宅を誘導するゾーン

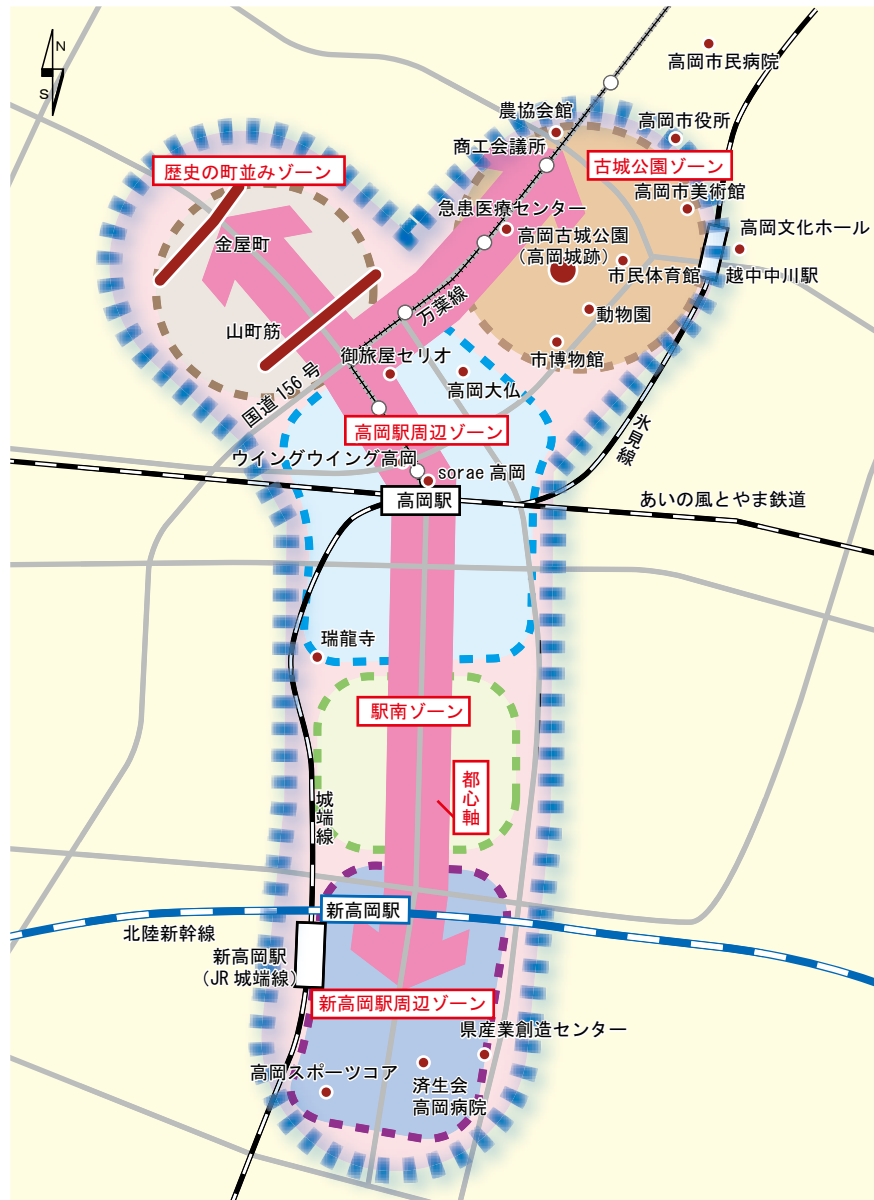
(4) 駅南ゾーン

沿道サービス施設や業務施設と調和した良好な居住環境の形成を図るゾーン

(5) 新高岡駅周辺ゾーン

大都市圏と飛越能地域との広域的な交通結節点として、商業・交流機能を中心とした高次都市機能の維持・誘導を図るゾーン

【都心エリアのゾーン区分図】



財政の見通し

第4次基本計画期間中（令和4年度－令和8年度）における財政収支の見通しについて試算を行いました。

試算にあたっては、現行の行財政制度を基本とし、過去の歳入歳出の実績を踏まえながら、人口の見通しをはじめ現時点で想定される事項を可能な限り考慮しています。

また、健全な財政運営を行うことを基本に、行政運営の効率化による経費節減を反映したものとするとともに、国・県支出金、市債等については、各事業に見合った適正規模で見積もっています。

財政見通し（一般会計）

令和4年度から令和8年度までの合計額

単位：百万円、%

		推計額	構成比
歳入	一 般 財 源	216,540	63.7
	うち市税	125,700	37.0
	国 ・ 県 支 出 金	69,750	20.5
	市 債	21,150	6.2
	そ の 他 財 源	32,390	9.6
	歳 入 合 計	339,830	100.0
歳出	義 務 的 経 費	168,030	49.4
	投 資 的 経 費	40,030	11.8
	一 般 行 政 経 費	131,770	38.8
	歳 出 合 計	339,830	100.0

◎義務的経費「人件費、扶助費（生活保護費や児童手当などに要する経費）、公債費（市債などの返済に要する経費）」

◎投資的経費「学校、公営住宅、道路、公園などの建設に要する経費」

◎一般行政経費「施設の管理運営など経常的な行政サービスに要する経費」

リーディングプロジェクト

1 第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」

基本構想に掲げるまちの将来像である「市民創造都市 高岡」は、市民一人ひとりが日々の活動で新たな価値を創出することで、次の世代を担う市民が育ち、新たなまちを創っていくという好循環の中で実現するものであり、市民一人ひとり、団体一つひとつの個々の「ひとの力」を引き出し、つないでいくことが重要となります。このため、第4次基本計画では、「ひと」の創生を起点としてまち・ひと・しごとの創生を効果的に進める第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」をリーディングプロジェクトとして位置付け、施策を横断する形でそのプロジェクトに取り組むことで、基本計画の実効性を高めます。

2 みらい・たかおかの特徴

「みらい・たかおか」では人口減少への対応として、①若者の移住・定住を促進する、②若者の働く・結婚・子育ての希望をかなえる、③人口減少に対応可能な地域をつくる、という3つの視点を基本的考え方とし、市民の皆様をはじめ企業や団体、地域、行政がパートナーとなって取り組みを進めることで、2060年に125,000人の人口を確保することを目指しています。

この目標を達成するため、「ひと」がまちに新たな価値を創造し魅力的なしごとを生み出す。「しごと」がまちを活性化し創造的なひとを呼ぶ。「まち」がひとを育てしごとを支える。という高岡ならではのまち・ひと・しごと創生の確立に向け、4つの基本目標を設定し具体的な施策体系を構築しています。

また、持続可能なまちづくりを推進するため、①地域コミュニティの維持・強化、②広域連携の一層の推進、③地域資源の最大活用及び新たな価値の創出、④IoT、AI等をはじめとした次世代技術の積極的活用という4つの視点を施策・事業を横断する形で取り入れています。

さらに、地方創生の取り組みの一層の充実・深化を図るため、SDGsの理念に沿って持続可能なまちづくりや地域活性化を進めることとしています。

具体的な施策の推進にあたり、誰一人取り残さない、持続可能で包摂性のある社会の実現を目指すというSDGsの考え方を取り込んだ事業の企画・立案を通じて、様々な企業、団体、市民に幅広く普及啓発して意識を醸成するとともに、多様なステークホルダーと連携し、地域における自律的好循環を形成することとしています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



3 リーディングプロジェクトにおける4つの基本目標

(1) 多様なひとが住みたいと感じるまちをつくる

本市の人口減少対策では、若者、女性の転出を抑制し、転入を促進することが大きな課題となっています。若者、女性を中心に移住・定住を促すため、豊かな自然や災害の少なさなど本市の住みよい環境、ものづくりを背景とする魅力的なしごとに関する情報を積極的に発信し、高岡に好感を持っていただくとともに、嗜好、ライフスタイルにあった住まいの確保、生活環境の整備に努めます。

また、地域の産業やまちづくりを担う人材を確保する観点から、関係人口の創出・拡大、大学生のまちづくりへの参画、若者の就職支援や非正規雇用対策の推進、女性や中高年世代の定住の促進等を通じた高岡への定着促進を図ります。

(2) 安心して子どもを産み育てられるまちをつくる

若者や子育て世帯の移住・定住を通じた出生数の増加、将来的な出生率の向上に向け、子どもが健やかに育ち、親が子育ての喜びを実感できる環境づくりを進めます。

しごとと子育てが両立できる環境づくりを推進するため、主に若者や子育て世帯が経済的に安定するための「しごと」の創生を進める一方、放課後児童クラブをはじめ、関係機関や地域コミュニティとの連携により地域全体で子育て家庭を支える環境づくりなど、切れ目なくきめ細やかな子育て支援サービスの充実に努めます。

また、未来を担う子どもたちに対する教育を充実させるため、子どもたちの連続した成長を切れ目なく支援する高岡ならではの小中一貫教育を推進するとともに、ICT教育環境の整備に取り組みます。併せて、子どもたちが暮らしている地域に将来にわたって関わりを持てるよう、地域の文化や芸術に触れる機会の充実に努め、地域への愛着と誇りを育みます。

(3) 魅力的なしごとに挑戦できるまちをつくる

本市において、地域外から資金を獲得し、雇用の確保に最も貢献している基幹産業は、金属製品製造業やプラスチック製品製造業、化学工業などの製造業です。本市の産業の特性を踏まえ、地域産業の競争力強化に努めることで、若者や女性にとってやりがいのあるしごと環境をつくります。具体的には、新事業展開・新分野進出を図る企業支援及び創業環境の整備などに継続して取り組むとともに、円滑な事業承継の推進や、次世代技術の導入、外国人材活用などの観点を取り入れることで、中小企業や伝統産業を含む地域産業の競争力強化、若者向けの雇用の創出を図ります。

また、北陸新幹線敦賀開業を契機とした関西圏等との結びつきの強化により、企業活動の活性化及び交流人口の拡大を図ります。とりわけ、観光地としての魅力の向上及び新高岡駅を拠点とする広域観光を推進し、高岡をさらに国内外にアピールして誘客に取り組み、地域内の消費の喚起と観光関連産業の活性化を図ります。

(4) 誰もが自分らしく活躍し、 地域が輝き続ける創造的なまちをつくる

人口が減少する中、居住環境と都市機能を維持していくためには、既存のインフラを有効に活用したまちづくりを進める必要があります。このため、各地域の特性に応じた居住や都市機能をそれぞれの市街地内に維持・誘導し、地域間の交通ネットワークを確保するというコンパクト・アンド・ネットワークの仕組みにより都市構造を確立し、生活の利便性、機能性を確保するとともに、地域の消費の活性化を促します。また、まちなかに多様なひとが集まり、自ずと時間と空間を費やしたくなる「ひと」中心の空間を創出し、多様な主体の交流によるイノベーションを促します。

本市が産業や雇用の面で中核的な役割を果たす富山県西部地域全体でも人口減少が予測されることから、地域間の連携を強化し、生活機能の維持や地域経済の活性化に努め、すべてのひとが快適で健康な生活を送ることのできる環境をつくります。併せて、伝統産業などものづくりの技術や、越中万葉、祭礼・伝統行事など地域固有の文化に親しむ機会の充実と、芸術・文化活動の活性化に努めます。若者、女性、起業家、アクティブシニアなど多様なひとが活躍することで、新たな価値や発想が次々と生み出され、さらに地域が活性化していくまちの実現を目指します。

人口減少が進み、自治会等の地域を支える組織の担い手不足からコミュニティ活動の維持・継続が一層重要となる中で、これまで以上に地域の住民一人ひとりが地域の資源を活かし、地域を支える担い手としてコミュニティ活動に参画し、地域の事業者とも協力しながら、地域の主人公として生きがいを持って活躍できる環境づくりに取り組みます。

